

新春を寿ぎ、  
謹んでお慶び  
申し上げます

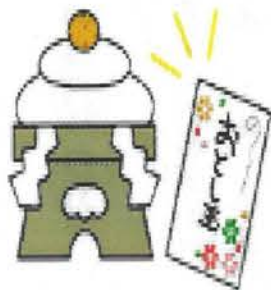
特定非営利活動法人

通院介護センター「さわやか」

理事長 江頭 博幸

昨年「さわやか」は、八月に法人格を取得し、やっと任意団体から、法人として法務局に登録をすませ、社会的に認知されました。通院送迎の仕事は同じですが、社会的責任は重くなりました。昨年四月には白ナンバーの移送サービスが国土交通省により、規制されようとなりました。有償の移送サービスは、緑ナンバー以外認めない、運転も二種免許が必要、個人ではだめ、などの条件が提示されました。現実には多くの個人・白ナンバーの車が移送サービスをしているので、国土交通省は、黙認の形(グレーゾーン)をとっていました。小泉内閣による、構造改革特区制度の移送サービス特区では、現行通りの白ナンバーによる移送サービスが認められました。昨年十二月には、国土交通省から、「さわやか」に、グレーゾーンに

かかわるアンケート調査がきました。今年二月初ころには、国土交通省から、アンケートの結果に基づき、新しい移送サービスのガイドラインが提出される予定です。今のところ、個人による移送サービスは認められる予定です。いままでは、白タクまがいとして、黙認状態であった、移送サービスが名実ともに、公式に認められることになりそうです。今年も、厳しい年になりそうですが、「さわやか」一同、新たな目標に向かって前進します。皆様におかれましては、更に良い年になるよう祈念しますとともに、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。



# 謹賀新年

## 事務局よりご挨拶

副理事長 河添 博志

ボランティアの皆様明けましておめでとうございます。昨年中は大変なご活動有難うございました。何事もなく無事に過ごさせて頂いたことは、ボランティアの皆様の努力の賜であると感謝いたしております。ここに皆様方とともにめでたく平成十六年の新年を迎えましたことを先ず、心からお喜び申し上げます。

昨年、四月には介護保険の見直しがあり、それに伴って通院事業にも大きく変化が現れました。介護タクシーと白ナンバーのボランティア輸送（自家用車）の必要性を認められている。そうした中で、通院介護センター「さわやか」では、これに対応するためNPO法人（特定非営利活動法人）を立ち上げることにしました。十月には、任意団体



「さわやか」も九年目の新年を迎えることができました。これもひとえにボランティア様のお陰と感謝いたしております。五周年記念式典の折、掲げた「更なる発展を目指して」を目標に、昨年は特定非営利活動法人に認証され、前進したのではないかと思っております。引き続き、十年目を前にして「更なる発展」の意味をもう一度みつめ直し、心新たに、一歩も二歩も前進しなければと思っております。事務局では、ボランティア様とのコミュニケーションをより一層計り、研修会や交流会も充実したものになるよう努力いたします。利用者の方の自立支援に少しでもお役に立てるよう頑張ります。ボランティアの皆様、本年も「さわやか」を時には、厳しく、いつも、やさしくご指導ください。よろしくお願い致します。

事務局一同

## 「さわやか」理事 故 坂倉春美さんへの追悼の辞

特定非営利活動法人 通院介護センター「さわやか」

副理事長 山田 浩美

新年に届いた私への第一報は、坂倉さんの訃報でした。

「さわやか」の理事であり、はまゆう会王子病院のソーシャルワーカーであります。坂倉春美さんが、昨年十二月三十一日逝去されました。

坂倉さんは、「さわやか」の設立の際には、尽力され、ソーシャルワーカーの立場で、「患者さんのニーズにあつた通院送迎支援を…」と、多くのアドバイスをいただきました。

また、「さわやか」の第一回ボランティア研修会では、「ボランティアの在り方と介護実践」と題して、自ら講師をして下さり、患者さんとの接し方や、車椅子の扱い方など、ボランティアさんには、大変好評でした。その後もボランティア研修会や、学習会には、必ず出席してくださり、ボランティアの皆様に変な感謝をされてきました。

私自身も、「さわやか」のコー

ダイネーターとして、また一人の透析患者として、たくさんの助言をいただき、励まされ、助けていただいたことは、どれほど心強く思ったことでしょう。王子病院のソーシャルワーカーとしても患者さん方に、とても慕われており、一月四日の「お別れの会」には生前交流のあつたたくさんの方々が参列され、突然の別れを惜しんでいました。



私自身も、「さわやか」のコー